

昔からずっと、 川とともに、 久知河内



久知河内ホタルの会

目 次

昔からずっと、川とともに、久知河内	1
久知川が魚道つきや近自然工法の川になったら	1
そのために、私たちが、今年やること	2
これまで、あたりまえだったこと。今もやっていること	2
川とホタルを大切にされていて良かったこと	2
一人ひとりの川の思い出	3
15年度に、こんなことやります	5
いろんなことを話し合いました。	6
川のこと	6
ホタル祭り、サケ祭り	9
田んぼ畑のこと	10
大学生との交流のこと	11
山のこと	11
地場産品のこと	12
少子化のこと	12
高齢化のこと	13
長安寺のこと	13
その他のこと	13
14年度、久知河内、ビジョン作りな日々	14
久知河内、ビジョン作りの感想	15
久知地域ビジョンづくりスタッフ	16

両津市久知河内地区 緑の山里 地域ビジョン

久知河内をつらぬく



一本の川

昔からずっと、川とともに、久知河内

昔は手ぬぐい一本を持って朝、川に出て、顔を洗って、米をとぎ、川と一体になった生活があった。川で育って川で生きてきた。

これからは、川も自分も自然にかえり、大切にしていきたいと思う。

朝から晩まで川と生活してきた。

日が高くなってから行くと水がぬるくなるので、朝一番に飲料水を汲みに行った。

田の水も久知川の水を使った。

風呂の水も家へ運んで生活した。

久知川と生活とは切っても切れないもんだった。

だから、これから・・・



久知川が魚道つきや近自然工法の川になったら・・・

- ・ ホタルの大発生
- ・ サケ、その他の川の魚の溯上
- ・ 水質がよくなれば、ホタル米がよくなる
- ・ 子ども達の遊び場になる
- ・ サケがあがってきたら
毎年何匹あがってくるかカウントして、さらに繁殖して増えるように放流を続ける。
さらに繁殖させてに捕って食べる。
ホタル祭りに続いて、佐渡中の人があるサケ祭りをやりたい。



そのために、私たちが、今年やること

■私たちの気持ちをまとめる。

どうやって→ 川への気持ちをみんなが書きます。

■色々な人に、川と久知河内の気持ちを伝えます。

どうやって→ 両津市の広報と、県広報に取材に来てもらう。

●その時どうするの？

川で遊ぶ道具とか、川と関わりのあるものを取材の人に見せます。

●これ何って聞かれたら？

孫や子どもに話すように伝えます。

●そうしたら、どうなるの？

川への気持ちが紹介されます。

そして、聞かれるので、思い出したり、もっと、楽しくなります。

●それで、どうするの？

川と暮らしと生き物のことを確認して皆で集まって次の一步を決めます。

これまで、あたりまえだったこと。今もやってること

- ・水が少ない 8 月に草刈、川の清掃
(昭和 30 年代後半まで川の水を飲料水にしていたため
欠かせなかった)
- ・サケの稚魚の放流(平成 5 年から)
- ・ホタル・カワニナの増殖(土側溝づくり)
- ・河崎小学校児童が水生生物の調査
- ・小学生に看板も作ってもらいました。



川とホタルを大切にしている良かったこと

ホタル祭りを 2 週間行っているが、集落の活気につながっている。
集落の知名度、誇りになっている

ウド、竹の子、梅干、つけもの、ホタル米の売上げが増加している。



他の集落が楽しみにしている。
若い人が来て
デートコースになっている。
今年も長安寺でコンサート
を行います。
古箏コンサート(5/31)



一人ひとりの川の思い出

久知川は私の子供のころからの遊び場、小学校低学年の頃はエビすくい。ザルを持ち出し、母に怒られる。高学年になるとアユを捕り、アユを餌にしてうなぎを捕る。今は深いところがなくなったが、昔は深いところがあり、泳いで小魚を手づかみしたものだ。

高校の頃マス捕りに出た。柳の下に大きな魚がいた。ヤスについて初めて今までよりも大きな魚を捕ったのがやみつきになり、隙を見ては川へでる。ヤス捕りよりもカギ捕りの方がおもしろいと先輩の叔父さんから教わり練習する。カギ捕りは水が濁っていても捕れるので、大雨の後はよく遊びに出たものだ。

昭和34年～42年頃だと思う。大雨が降り続き洪水になり、堤防が決壊、道路がなくなり、その後現在のようなブロック積み護岸になり堰もコンクリートで高くなり、魚も昇ってこなくなった。水害で困ったこともあったが、ダムができ、現在はよくなった。

久知河内は住めば都で、初夏にはホタルが舞うよいところだ。



8月16日のお盆送りの時間帯になると、集落中の子ども達が忙しくしていたものでした。麦わらで作った1m弱の船にお供え物(なし、ぶどう、団子、お菓子、他)をいっぱいに乗せて川に流したものです。

それを子ども達が各家を我先にと目の色を変えていました。久知川の清流を見るたびに数十年前のことがよみがえります。

河川の掃除は子ども会が一生懸命になって水の流れをよくした思いがあります。

私は久知河内の住民になってから57年になります。久知川の水を飲料水とし生活用水だったことにびっくりしました。だから今でも川への思いはひとしおであり川をきれいに心がけています。

子ども達は集落の上流で泳いだり、川は遊び場の一つだったようです。

久知河内は静かすぎるほど静かなところ。このごろは、年に一度ホタル祭りにぎわいますが、もっともっと刺激がほしいと思っていました。

最近、地域づくりの集会のおかげで、新しい風がはいり勉強させてもらっています。

一人ひとりの川の思い出

小学生の頃、夏休みになるのが、楽しくてしかたありませんでした。朝から夕方まで、毎日川へ泳ぎや魚とりなどをしていました。それに飽きると、今度は沢ぐるみの青い実を無理やりもぎ取り、中の実を食べたものです。8月にある、両津の川開きには、くるみの皮の渋が手いっぱい黒くついているのでみっともなく、軽石で落とそうとして、手の皮がむけて痛い思いをしながら出かけました。



昭和30年代の久知川は旧態依然として川幅も狭く、堤防もきわめて低かった。従って川への水汲みも石を3、4段積みれば容易に汲み取ることができたのである。川の水は、簡易水道のできるまでは集落民にとってかけがえのない飲料水であった。また、洗濯や野菜等を洗ったり、農耕のための牛馬を川下(集落のはずれ)で洗い、または川の水で風呂へ入り体の疲れを癒して明日への労働への糧としたものである。

6月のホタルの最盛期には、菜種の実を採った枝を竹の先に固定し、よくホタル狩りをしたものである。ちょうどこの頃は田植えの季節である。川水が増水すると産卵のためにマスが遡上を始める。年間数百匹にもなろうか。朝方捕りに出て十匹も持って帰る者もいた。

7月になるとアユの解禁となる。漁業権を持たない者は捕ることができなく、これは厳しかった。

夏になれば川の水の流れも細くなり、今度はうなぎ捕りに出たものである。餌はアユを釣り針につけ細竹の先端にこれを取り付け大きな石の穴を探しここへ入れるとよく釣れた。ウグイ、イワナの川釣りもなかなか楽しい遊びであった。餌はブドウの蔓の中にある虫、この餌ではよく釣れ体長8寸(約24cm)の大物を手にしたこともある。

他に、久知川の水はかけがえのない貴重な飲料水であった。そのため、川へは一切ゴミや汚物を捨てないこととし、たい肥等にならないものは、すべて心経橋の下まで持って行き、増水したときこれを流し、集落民個人個人が神経質になるくらい清潔に注意したものである。

15年度に、こんなことやります

■ 観察な日

- ◎ホタルの幼虫とカワニナの生態調査です。
- ◎4月
- ◎みんなで久知川を歩いて調査をします。
- ◎用意するもの 長靴、よごれてもいい服装



■ 音楽な日

- ◎篠笛と古箏のデュオコンサートです。
- ◎5月31日 18時30分～ 久知河内長安寺本堂
- ◎前売り券 2000円（当日券 200円増し）
- ◎篠笛 狩野泰一/古箏 ジャン・シャオチン

■ ホタルな日

- ◎2週間、ホタル祭りをやっています。
- ◎6月15日～6月28日 19:30～21:00
- ◎提灯を持って、久知川のホタルをお楽しみください。



■ 久知河内な日(その1)

- ◎地域づくりの学習会です。
- ◎7月

■ 久知川に感謝!の日

- ◎地域外の人と久知川の清掃をします。
- ◎8月
- ◎用意するもの 汚れてもいい服装



■ 久知河内な日(その2)

- ◎地域づくりの学習会です。
- ◎10月

■ ホタル米な日々

- ◎久知河内でとれた100%コシヒカリを直販しています。
- ◎10月～翌年9月まで



いろんなことを話し合いました。



※この後のページの凡例

- ㊦ アドバイザーの発言
- ㊧ 久知河内の住民の発言
- ㊨ 県の職員の発言

川のこと

- ㊨ 小股川堰堤の土砂をとるためには申請が必要(申請書、実績平面図、断面図、ほしい土砂の量、土砂を使う理由など)。内容が専門的なので地域住民が許可申請した例がないが、そこがクリアできれば20~30m³なら許可されると思われる。
- ㊨ 久知川における魚が上れない堰は集落の下1箇所、集落の上5箇所。何のために魚道を作るかということを考えてもらいたい。
- ㊨ 久知川ダム脇の横穴はコア箱が入っており、またコンクリートが劣化しているので地元の人が利用するのは難しいと思われる。
- ㊧ 魚道について市に陳情に行ったら一番下流の学校橋の状態が悪いから魚道をつくっても登る率が悪いのではないかという話があった。土砂が波で寄せられてたまっている。
- ㊨ 離岸堤が出てきていて砂がついているからでしょうかねえ。
- ㊧ 一年に何回か川の流れが変わる。海がしけると変わる。そうすると土方の業者が掘って水の流れを良くしてくれる。
- ㊦ 魚が登る時期というのものもあるかもしれない。
- ㊧ あそこから登るのは白魚くらい。あれは水が少なくても登る。
- ㊧ こんど学校橋の架けかえをするのだが、そのときどうにかならないか。
- ㊨ 橋の架けかえは道路のための架けかえで、川のための物ではないからできないと思われる。
- ㊦ 魚道を要望にするにはどのようなものくらいのものをつけるとよいのでしょうか。
- ㊨ ビジョンの中で魚道がどのような位置づけになっているかということによりと思う。魚道をつくるのが目的ではなく、魚道を使ってどう地域の活性化を進めるかということ。

- ㊦ サケはとってもいいものか。
- ア 集落で集まった人が漁業組合だと宣言すれば、漁業権はそこに発生するものでしょうかね。
- ㊦ 以前はマスがあがったが、この集落と隣の城腰でとっていた。
- ㊦ 内水面に確認しておきます。
- ㊦ とってもいいということになると、「サケ祭り」をやって、ウドもあるし、それをかね合わせて皆さんに食べていただくということもできると思います。
- ア 今のサケの話は、ここまであがってくるようにくるようにしてくれば、毎年何匹あがってくるかカウントして、それをみながらさらに繁殖して増えるように放流を続ける、さらに繁殖させるためには捕って食べるということも言ってらっしゃいますね。サケがあがってくるということはほかの魚もあがるということだと思います。イワナやヤマメやカニなどもくっついてきます。そんな生態系を軸とした、食べるとか、増えるとかそんな軸があるといいですね。



- ㊦ 川に土を入れたい。土砂を入れても流れるので石を入れられないか。土砂をためたい。
- ㊦ 落差江をつけたい。蛇かごや十字ブロックは起こされてもたない。
- ㊦ ヒアラ堰を中島神社前のようにしてもらおうとよい。あれが一番いい。
- ㊦ 魚道をつくりたい。
- ア 魚道をつくって魚があがってきたらどうするか。
- ㊦ サケ祭りをやりたい。マスもあがってくるかもしれないし。
- ㊦ 川に関連したことからやっていかなければいけないと思う。
- ㊦ 河川法により、川に石を入れるのは難しいかもしれない。
- ㊦ テトラポットを入れてから河口に土砂がたまるようになったと思う。
- ㊦ ホタルを維持して増やすためには川の環境をよくしなければならない。
- ㊦ 事業をやるには、住民が川をこれだけ大事にしているというパフォーマンスが必要。今年は両津市の椿川でアダプト制度といって、川を集落の養子にして清掃をしています。ということで清掃の用具と清掃の際に保険に加入するお金を出しました。
- ㊦ 久知川でも毎年夏に清掃をしている。
- ㊦ 川を良くすることによっていろいろな枝葉が出てくると思う。たとえば、ホタルが増えたり、サケが増えれば、それを見に来る人が増えるだろうし。川が掘れると護岸もやられてしまう。軸は、川をまず生かすということですね。

川を生かすと、

- ・ホタルの大発生
- ・サケ、その他の川の魚の溯上
- ・水質がよくなれば、ホタル米がよくなる

- ア みなさんにとってホタル祭りというものはどのような位置づけなんですか。
 - ・活気が出る。
 - ・知名度になっている。
 - ・ほかの集落の人が楽しみにしている。
 - ・デートコースになっている。
 - ・特産品(ウド・あられ・たけのこ・うめぼしなど)の売り上げがのびている。



- ㊦ 川をどう生かしますか
 - ・洗掘防止
- ㊧ かつては飲料水だった。
- ㊨ 川のことについて役割を整理してみましょう。住民がやっているのは
 - ・夏の水が少ないときの清掃。昭和 30 年代後半まで飲料水にしていたので、清掃は欠かせなかった。
 - ・以前は川に入りやすく、大きな石を置いて、水を汲みやすくしたり、洗濯のすすぎをしたりしていた。もっと汚いものは集落の下まで来て洗うことになっていた。
 - ・サケの放流、平成 5 年頃から
 - ・ホテルの活動、カワニナの生息調査、土側溝の管理
 - ・河崎小学校の水生物調査
- ㊩ これから小学生が手作りした看板を立てるようだ。
- ㊰ 今年のホテル祭りに、NHKやメディアに川について話したほうがいいですねえ。
- ㊱ 川で遊んだ思い出を皆さんに書いてもらって、ホテルの会会長に集めてもらいましょう。

その他の意見

- ・ 川上と川下とのお見合い、河崎小との対話の取り組みがあったら面白いと思う。
- ・ 川を基盤に発展したい。
- ・ 昔は手ぬぐい一本を持って朝川に出て、顔を洗って、米をとぎ、川と一体になった生活があった。川で育って川で生きてきた。
- ・ 自然にかえり大切にしていきたいと思う。
- ・ 川に入らなくなる。川の生物が変わる(アユ・ホテル)
- ・ サケのための魚道がほしい魚道をつくる(ヒアラ堰)
- ・ 下流側から魚道作り集落下 3 箇所
- ・ フルシーズン何かできるように"
- ・ ダムの影響で川底の土砂が減った
- ・ ダムの泥をながせないのか
- ・ 石を入れる
- ・ サケ祭り
- ・ 砂防ダムの土砂を運んで下流に持ってきてはどうか
- ・ 申請により可能性あり
- ・ 近自然工法の川(ア)
- ・ スリット付きのダムができているところもある(県)



ホタル祭り、サケ祭り

- ア ホタル祭りがありますが、サケ祭りとかマス祭りとか出てきて、年間三本の祭りになったら大丈夫ですか。
- ㊦ 大丈夫。サケがあがってくればね。
- ㊧ 今年の5月31日に古箏と篠笛のディオコンサートがあります。有料ですがぜひ来てください。

その他の意見

【課題】

- ・ 10年後にはホタル祭りができない

【解決案】

- ・ 3年後くらいにホタルツリーの復活
- ・ ホタル山の下2反(春・秋トラクター耕起)3万円
- ・ 草刈3回、あぜ塗り4万円
- ・ 川の環境づくり
- ・ 川に土砂が少なくなるとホタルが住めなくなる
- ・ トキに負けないホタルを伸ばして生きたい。
- ・ ホタル科学館
- ・ ホタルプラネタリウム
- ・ ホタルの養殖施設の建設
- ・ ホタル自然科学館
- ・ ホタル散策ツアーの実施
- ・ ホタルのネオン看板をつくる
- ・ ホタル館の建設(中では毎日ホタルシアターが楽しめる)
- ・ ホタル鑑賞に駐車場がほしい
- ・ ホタルを生かした村づくり(県)
- ・ ホタル学校づくりホタルの飼育と観光(県)



田んぼ畑のこと

- ㊦ 集落の上の田で何を作るかということを考えることが、これからの集落作りを進める上で重要と感じる。
- ㊦ 集落から上の田はトキの餌場にしたほうがよいのではないか。
- ㊦ 独協大などの大学生を呼んで田を起こしてもらったらどうか。
- ア 今年も大学生が来たほうがいいですか。
- ㊦ 田をどうにかしたい。
- ㊦ トキに貸してあげたい。国に買い上げてもらって。
- ア 環境省は金が無いといっていますね。国になんとかしてもらう前に集落でできることを先行しておくといのですが、トキのためにいるのは田に水がはってあってどじょうがいる。どじょうでも、めだかでも、ほたるでも何でもいいのですが、要は田んぼ版ホタル大発生地を拡大することとイコールだと思います。だからあいている田に水を張ってホタルの生息環境を作っていくというのは悪くない話だと思います。ホタル基金は作るべきだと思います。
- ㊦ もう、祭り期間中は、やっています。
- ア それを拡大するといいと思います。「トキ募金より身近なホタル募金」それは常設化してもよいですよ。ホタル山の前の田に水を張るとか。

- ア 田は…
- ㊦ 耕作放棄したものを誰かに作ってもらえれば。
- ア 久知河内の中では田を拡大したい人はいませんか。
- ㊦ いないなあ。
- ア 誰か借りたい人がいたら貸すんですかね。たとえば、新穂でトキの交流会館みたいなのができて田を作りたいような人がいたら…
- ㊦ そういう人たちがいたら貸したい。
- ア これから 15 年度にかけて、そのような動きが大きくなるはずなので。
- ア 田のほうは、入る人が入って作業をしてくれたらいいなあということで、あれてヤブになると困るということで。
- ㊦ ヤブになるとどうにもならないので作って自分で持って行ってくれるというのが一番ありがたい。

その他の意見

【課題】

- ・ 跡継ぎのあてがない
- ・ 若い人が耕作意欲がない
- ・ 機械を個々でなく 4~5 戸で使いたい
- ・ やりたい人に作業してもらう
- ・ 農業は採算が合わない
- ・ かつては山の田に行くのが楽しかったが大人になるにつれ苦痛になった
- ・ 減反で耕作ができない
- ・ 機械が高いため採算が合わない



- ・ 生産組合をつくっても機械の耐用年数が予定より短いので採算が合わなくなる
- ・ 佐渡に働き場がない(あれば土日にも農業ができるかもしれない)
- ・ 山の田は基盤整備していない
- ・ 内山現在耕作不能
- ・ 棚田の復元をしたが荒れてきている
- ・ 3年で中田が草ヤブになる。
- ・ 1～5年では今と変わらないのではないか
- ・ ダム両側の田が草ヤブとなる小股川まで
- ・ といしの池の田が課題
- ・ 10年先大久米耕作不能
- ・ 10年先田畑の耕作放棄地が多くなる
- ・ 集落の上の田の耕作放棄が進む



【解決案】

- ・ 人をひきこむ(県)
- ・ 湛水田を生かす。
- ・ 都市から来た人がやるには小さな田のほうが充足感が得られる
- ・ 6ha(200～300万円)集落からの委託を受けて、誰かが営農
- ・ 不耕地は環境保全基金で維持"
- ・ 環境保全型ビオトープ(県)



大学生との交流のこと

- ・ 集落から上の田を買い上げてトキの餌場にしてほしい大学生を呼んで作業してもらおう

山のこと

- ㊦ 木炭・竹炭はどうか。
- ㊦ 窯がないとできないのではないか。

その他の意見

【課題】

- ・ 手入れ不足で山が荒れる
- ・ 木炭・竹炭の利用
- ・ 植林地は崩れやすいので水が一気に出る。水がにごる
- ・ 水害で道がなくなり山へいけない。道をなおしたら山に行ける。
- ・ 山林が荒れて水質の悪化と洪水の多発



- ・ 竹やぶがさらに荒れる

【解決案】

- ・ 紅葉が美しい。もっと増やしてはどうか。
- ・ 暗渠・竹細工の需要(商品化)(県)
- ・ 1坪に1本の竹が理想、3・4年で切る。補助金制度もある(県)

地場産品のこと

【解決案】

- ・ ウドの山を宝の山に。ウド生産とウド料理(県)
- ・ ウド山ハイキング・作業
- ・ 炭窯(ナラ)、生産組合長、興味あり

少子化のこと

【課題】

- ・ 職場がないため人口が減る
- ・ 芸術家に住んでもらう
- ・ 現在27戸→十年後12戸?
- ・ 自然を生かした観光スポットづくり(ツアー他)
- ・ 人口が減りさみしい
- ・ 伝統芸能がなくなる
- ・ 集落の環境維持管理作業(川、道の整備)ができなくなる
- ・ 10年後の河崎小学校は110周年の祝いができない
- ・ 学校・保育園合併か?

【解決案】

- ・ 定住促進住宅の建設3戸有料
- ・ 下宿してもらう
- ・ 土地を貸して借地料をとって住宅建設をすすめる
- ・ 島留学
- ・ 定年になったら集落にかえってもらう(県)
- ・ 人口、子どもが減る。保育園・小学校もなくなる
- ・ ホタルでお見合い
- ・ 子どもにアユとりを教えたい

高齢化のこと

【課題】

- ・ 高齢化で若い者の負担
- ・ 家族の負担が大きくなる

【解決案】

- ・ 10年後公民館を開放して老人預かり道場をつくりたい
- ・ 介護保険が課題、シルバーいきいき塾(公民館)
- ・ 介護施設の課題、保育園・小学校と老人クラブの交流 一緒に田仕事とか
- ・ 公民館をバリアフリーに
- ・ お年寄りとデート
- ・ いきいきモデル村の実現 自然がいっぱい 畑作 花作り
- ・ 老人のやれる農作業をみつける 生産物を集落の入り口で直売する(県)
- ・ 花づくりの支援ができます。「花の島プロジェクト」「緑の100年物語」(県)

長安寺のこと

【課題】

- ・ テンの駆除をどうするか(ウサギ・キジも減る)
- ・ 長安寺裏の竹やぶがムジナの巣(田畑を荒らされる)

【解決策】

- ・ 長安寺裏の竹やぶは来年の独協大生にやってもらう(ア)



その他のこと

【課題】

- ・ クロカメムシが増えて困る

【解決案】

- ・ 集落の入り口の空き地(市の土地か?)に桜を植える
- ・ 集落全員の顔写真と得意技を書いて全県・全島に配布し集客を図る(県)
- ・ 久知河内は市街地に近いのもっと外部の人を呼べる拠点とイベントがあるとよいと思う(県)
- ・ 集落全戸に家畜がいて、家畜の鳴き声がいつも聞こえる集落(県)
- ・ トキを一羽もらう(県)
- ・ 各界の有名人をよんで長安寺シンポジウム(県)
- ・ 集落の人が一番の宝。観光名所だけでなく、このような人がいるということを伝えたい。(県)

14年度、久知河内、ビジョン作りな日々

■プレシンポジウム 車座座談会

◎9月7日(土) 長安寺にて

◎「トキ野生復帰に向けた環境保全農業のこれから」

◎小佐渡東部地域の環境保全型農業の取り組みについての発表を聞き、話し合いました。

◎久知河内のホタル米についても紹介しました。

■独協大学生との交流

◎7月25日～7月28日 久知河集落

◎独協大学生の学生が久知河内で集落の住民に聞きとりをして、久知川について、久知河内の水利用について調べてくれました。

◎放棄された湧水田を大学生と共にビオトープ化しました。

◎いまだに、手紙などで住民と大学生の間で交流が続いている例もあるようです。

■第1回ワークショップ

◎9月18日 久知河内公民館

◎ビジョンづくりのやり方について

◎今までの久知河内の取り組みの振り返り

■第2回ワークショップ

◎10月17日 久知河内公民館

◎このまま何もしなかったら、10年後の久知河内は・・・

■第3回ワークショップ

◎11月7日 久知河内公民館

◎不安の解決策は？！

■久知川ウォークと第4回ワークショップ

◎12月1日 久知河内

◎実際に川と集落を見て具体的なプランを練りました。

■第5回ワークショップ

◎2月14日 久知河内公民館

◎要望が強かった川について、いろいろなことを話し合いました。

■第6回ワークショップ

◎3月12日

◎だいぶ形が見えてきたビジョンについて、ホタルの会役員と市の職員で話し合いました。

■第7回ワークショップ

◎3月26日

◎ビジョンと、ビジョンの今後について、話し合いました。

久知河内、ビジョン作りの感想

若い人は生活におわれていて大変。私は海の近くで育ったので、久知河内なら6月になると、かえるの鳴き声が耳につく。初夏に風呂上りに夕涼みに出ると、川の涼風は最高だと思う。海にはない。しょっぱくない。生活に追われているのを何とか川で気持ちを安らぐ、いやしの空間ができればいいなあと思う。足でも浸かって、井戸端会議ができるような。自分にそんな余裕がほしいし、そういう空間があったら、それこそ平均寿命がのびるのかと思う。

⑦今、川に降りられないですもんね。写真のように、一箇所でも降りられるようになったらいいですねえ。

子供の頃から、川を身近に感じて生活してきた。生活用水にも使用してきた。今は農業用水にのみ使用しているが、いつまでも川を忘れてはいけないと思う。

ダムができたおかげで、川が深くなっている。これからも続くと思うが、どうかならないものか。

⑧難しい問題ですよ。ダムにたまった土は腐っているので、それを流すと10年くらい川が死んでしまう。そのままにしておくともどんどん深くなっていく。ここは、ダムのあるほうの川はあきらめてもう片方の川の土砂を下に下ろすことを考えるといいと思います。砂防ダムの砂の活用を考えるといいかもしれません。

他所から来た人間なので、久知河内の昔を知らないが、昔の写真などを見せてもらおうと、風情があっていいなあと思う。本当は昔のままの川で残しておくことができれば集落としてもアピールできる一つの方法だったのかなと思う。川が人工的に整備されてきているが、その方法もいい方法があったらいいと思う。

⑨ある人の土地を使って、土地の再配分などが必要なのかもしれないですが、川が反乱する余地を、少しでも作ってあげると、すばらしい湿地ができる。新潟県には福島潟という野鳥がたくさん来る湿地がありますが、ほんのすこしの湿地で相当量の野生生物が帰ってきたり、それが公園化したり、経済に返ってくることもある。少し先に進んだら、こういうのを見つめつつ進んでいくとよいのかなと思う。

川に手すりなどなくて、小さい子どももいるが、落ちて怪我をしたという話を聞いたことがない。いいところもあるけれど、一度増水したら危険だというのが身にしみているんだろうなあ。

⑩たくましい子供が育ちますよね。ヨーロッパと日本の教育の根本的な違いは、ヨーロッパでは服を着せたまま川にとびこませて、万が一おっこちでも大丈夫なように考える。日本は危ないからと柵をつくる。その違いがある。久知河内の人は川で遊んでいるから、大丈夫なんでしょうねえ。

久知河内地域ビジョンつくリストッフ

■アドバイザー

◎里地ネットワーク 竹田 純一

■久知河内

◎ホタルの会会長 菊池 秀夫

◎久知河内集落区長 菊池 卓

◎久知河内集落副区長 菊池 茂雄

◎久知河内公民館長 三國 秀巳

◎久知河内公民館副館長 菊池 由夫

◎ホタルの会役員

副会長 三國 秀巳

副会長 本間 雅彦

庶務幹事 菊池 正博

庶務幹事 石川 正代

会計 佐藤 博

会計 五十川 康弘

◎コミュニティ世話役 菊池 弘

■新潟県

◎健康福祉課 古城 利憲

◎環境センター 金子 正史

◎土木課 大谷内 晃

◎港湾課 水上 秀樹

◎農業課 堀井 修

◎農業農村整備課 白川 恵一

◎森林・林業課 末崎 朗

◎地域振興課 倉本 春雄

■両津市

◎企画財政課 伊藤 賢治

岩崎 敦子

後藤 彩子

地域ビジョンの策定は「新潟県緑の山里・いきいき夢プラン事業」の助成を受けて実施されました。

久知川と久知河内

ホタル山



大久米堰



一ノ堰



高地の堰



久知川ダム



ここでサケを放流



田んぼ

久知河内集落

竹の脇堰

西の堰



東の堰



長安寺



公民館

ここまではサケが登って来ていました

サケが上れない堰

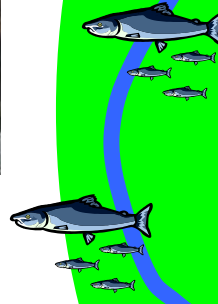
サケが上れる堰



ヒアラ堰



弁天堰



久知川

中島神社

Legend for weir types:

- サケが上れない堰 (Weir where salmon cannot pass)
- サケが上れる堰 (Weir where salmon can pass)